

COVER TALK

院長あいさつ 院長 末永 豊邦

特集

幅広く対応する消化器内視鏡の
実績と取り組み

ご紹介

再生医療 APS療法

Nanpuh Medi-co

院長あいさつ

本格的な暑さが続く日々となりました。日頃より当院との病診連携に多大なご協力とご支援を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染者が鹿児島県内においても多数発生しており、未曾有の危機にこれまでにない感染予防策に努められる日々と存じます。

また、この状況の中でも皆さまからの変わらぬご支援、ご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。当院は引き続き感染対策の徹底に取り組んで参ります。

さて、昨年の7月1日に院長に就任し、1年が経ちました。挨拶の中で「明るく楽しい職場をつくる」を提言しました。昨年度の経営収支は概ね良好で安堵致しましたが、この度の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う大幅な減収により、病院経営の危機に直面しております。感染予防対策の徹底と同時に、収支状況の改善も喫緊の課題として着手しているところです。

私は院長就任以来、できるだけ地域の先生方から直接ご意見を聞くことを心がけており、連携室スタッフと一緒に病院訪問を行っております。

その中で、よく耳にしたのは「予約がとれない」というご意見でした。そこで、以前は各診療科で診療枠数を設け、件数を制限しておりましたが、現在は地域の先生方からの紹介は予約外でも断ることなく全ての患者を診察することを病院の基本方針とし、「断らない医療」の実践に努めております。

時間外診療においては当直医2人体制になっておりますので、地域医療機関からの紹介、救急車による搬送患者については小児科・産婦人科・精神科等の患者を除いて全て受け入れ、診察の結果、当院で対応できない場合は連携先の専門病院へ紹介転送する体制となっています。

初めて当院の受診を希望される方は近くの診療所(クリニック)を受診して当院への紹介状をもらってご来院下さい。

また、健康診断を希望される方は直接健診課へご相談をお願いします。

今後も職員一丸となって地域医療支援病院としての責務を果たす所存でございます。

連携医療機関の皆さまにおかれましては変わらぬご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



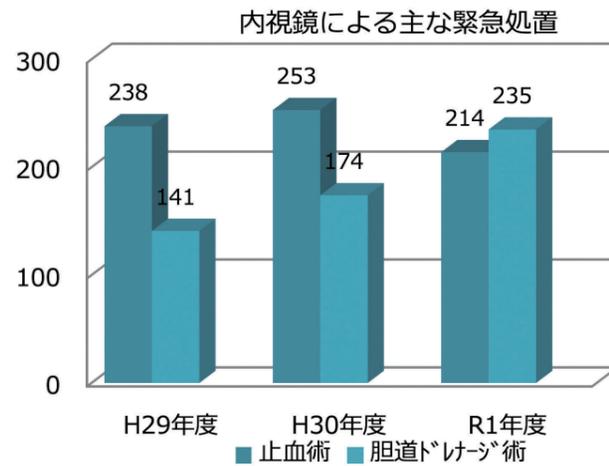
幅広く対応する 消化器内視鏡の実績と 取り組み



消化器内科 部長
島岡 俊治

内視鏡を駆使し、あらゆる検査・処置に対応

当科では消化管出血に対する内視鏡的止血術や胆道疾患に対する内視鏡的胆道ドレナージ術や経皮的胆道ドレナージ術など緊急の処置の他、消化管腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)やステント留置術をはじめとする内視鏡を用いた様々な処置、超音波内視鏡を用いた吸引細胞診やドレナージ術、胆膵疾患の内視鏡処置など消化器疾患に関するあらゆる処置を行っております。また上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査では拡大内視鏡を用い、胆膵領域では積極的に超音波内視鏡検査を行うことで消化器癌の早期発見に取り組んでいます。



消化器内科の内視鏡を用いた検査・処置実績 (令和1年度)

■ ESD(上部消化管)	93	■ ESD(下部消化管)	30
■ EUS(胆膵)	593	■ EUS(FNA)	73
■ MRCP	1,545	■ ERCP	519
■ 腹腔鏡内視鏡合同手術(LECS)	17	■ ダブルバルーン内視鏡	17

若手医師の活躍

現在の当科の診療体制は、成長著しい若手医師たちが支えているといっても過言ではありません。

技術の向上が目覚ましく、あらゆる検査・処置の術者を行えるようになってきています。

これからも消化器内科一同、常に新しい医療を提供できるよう研鑽して参ります。

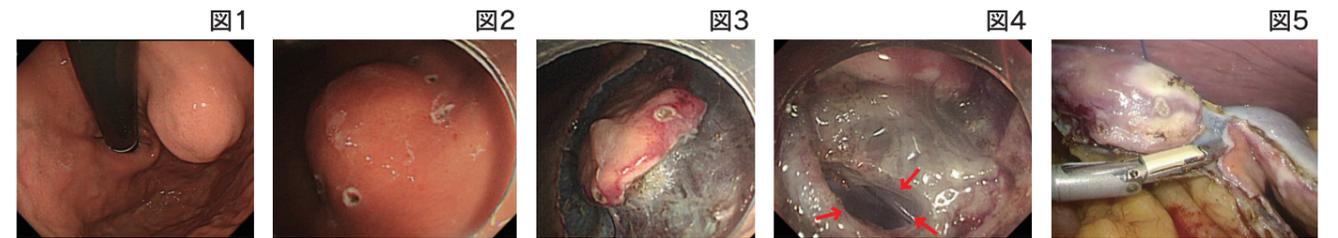


外科との連携による 低侵襲治療への取り組み

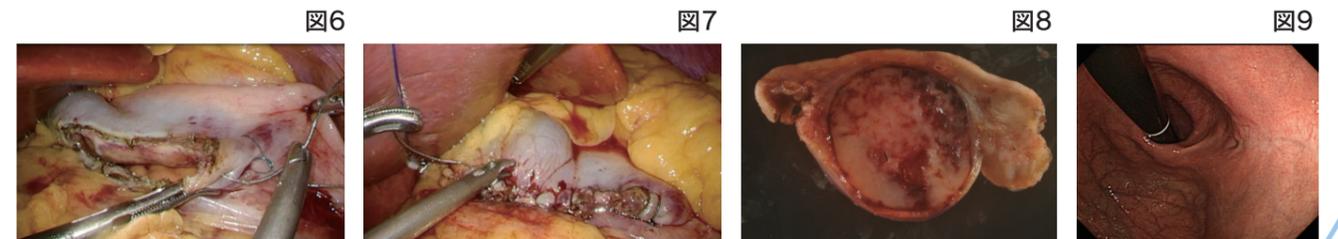
当科は外科との連携により、手術が必要と考えられる際には、速やかに対応できる万全のバックアップ体制も整っております。
胃や十二指腸疾患に対する腹腔鏡内視鏡合同手術(LECS)など外科との連携でより侵襲の少ない医療を目指しています。

外科・消化器内科合同の低侵襲治療 “LECS” (Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery)

内視鏡治療と腹腔鏡手術を同時に行うことで、必要最小限の侵襲で腫瘍切除を可能とする新しい手術方法です。特に噴門部や幽門部近傍の粘膜下腫瘍を切除する際、従来の方法だと噴門部胃切除術や幽門側胃切除術が必要となることがありましたが、粘膜内に限局する癌に対して行われている内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の手技を応用し、胃の内腔から腫瘍の周囲を切開・剥離後、腹腔鏡で腫瘍を切除し縫縮します。それにより術後も噴門や幽門機能を保つことが可能となります。当院では2014年保険収載時よりLECSを導入しております。



胃噴門部近傍の粘膜下腫瘍(図1)。超音波内視鏡下吸引細胞診で胃間葉系腫瘍(GIST)と診断された。全身麻酔下に腹腔鏡挿入後、内視鏡医によって腫瘍の場所を同定したのち、腫瘍辺縁の粘膜にマーキング(図2)を行った後、粘膜を全周切開し、粘膜下層まで剥離(図3)する。腹腔鏡で胃の外側から観察しながら、内視鏡医が切開部に穿孔を作る(図4)。その後、腹腔鏡で穿孔部から切開・剥離部にそって切除を行う(図5)。



腫瘍摘出後は、胃壁を縫合し、閉鎖する(図6,7)。摘出標本断面像(図8)。術後の内視鏡像(図9) 噴門は保たれている。

連携医療機関の先生から

上下部消化管の腫瘍の内視鏡的切除、消化管出血、胆管結石症を含む胆石症の治療、また膵疾患や急性腹症など南風病院消化器内科にはいつも大変お世話になっております。外科との連携がスピーディーで緊密である事も私共開業医が信頼している所です。

従来は島岡先生などベテランの先生方にお世話になることが多かったが、最近は楠元大岳先生などの若手の先生方をお願いする事も多くなっています。若手の先生方の今後の益々の御健闘も祈念する所です。今後ともよろしくお願いします。

健三郎クリニック 鹿児島市山下町9-1 チャイムズビル3F
TEL:099-805-0567 FAX:099-805-0666



健三郎クリニック
院長 今村 健三郎 先生

再生医療 APS療法のご紹介

～変形性膝関節症 治療の選択肢の1つとして～

当院では2020年3月より再生医療の一つであるAPS (Autologous Protein Solution: 自己タンパク質溶液) 療法を開始しております。

以前よりPRP(多血小板血漿)による治療は、スポーツ選手の障害や外傷治療に用いられよく知られておりましたが、2018年8月より我が国でも再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づいて、次世代のPRP療法であるAPS療法が施行可能となりました。APS療法はPRPよりさらに抗炎症作用、組織修復作用を有する成分を凝集し、主に変形性膝関節症の炎症、疼痛を抑える作用を持っております。海外の臨床試験では中等度までの変形性膝関節症において、1回の注射で最大24ヶ月間にわたって痛みと疼痛が改善したとの報告もあり、また日本国内においても幾つかの施設より、徐々に有効性が報告されてきております。



整形外科
部長 **川畑 英之**

日本整形外科学会整形外科専門医、
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会評議員、九州膝関節研究会幹事

《治療の流れ 日帰りでの治療》



①患者さんご自身の血液を採取



② 採取した血液を遠心分離機で攪拌し、APSを抽出



③ 抽出したAPSを痛みのある膝関節に注入



④ 診察後はすぐにお帰りいただけます

鹿児島県では2020年までAPS療法を行える施設がなく、これまで、県外で治療を受けたと患者様からお聞きすることもありました。

当院関節センターでは、今回APS治療を開始するにあたり、変形性膝関節症の患者様の病態、進行度、活動性に応じて、薬物療法などの保存療法から手術(人工膝関節置換術、関節温存手術)、再生医療まで様々な治療を選択し、seamlessに適切な治療を行えることが可能となったと考えております。

APS療法は現在のところ保険適応外にて、高額な治療となりますが、ご希望の患者様や治療に対してご不明な点がございましたら、いつでもご相談ください。

関節再建/人工関節センター TEL:099-226-9111



公益社団法人 鹿児島共済会 **南風病院**

〒892-8512 鹿児島市長田町14番3号

TEL 099-226-9111 <http://www.nanpuh.or.jp>

■ 医療連携・相談支援室 TEL:099-805-2732

FAX:0120-707-142

■ 外来予約係

TEL:099-805-2259

■ 画像診断センター

TEL:0120-332-411